

Birth Plan

～満足できる出産を～

開設以来当院は、充実した周産期管理を目指し、「より安全でしかも快適な分娩を！」をモットーに努力をして参りました。清潔できれいな病室、おいしい食事、アロマセラピーによるリラクゼーション、そして何よりもスタッフの確かな技術と心をこめたケアで皆様の出産・産後のサポートをしています。

お産は心身のリラックスと、「こんなお産がしたい！」という前向きな気持ちが重要です。そのために、当院ではバースプランを実施しております。待ちに待った赤ちゃんと出会う、記念すべき瞬間をどのように迎えたいのか、出産後の入院生活をどう送りたいのか、ご自身の希望やこだわりをよく考えてお選びいただき、お産への心と体の準備をしましょう。皆様のお産が満足していただけるものとなるよう、スタッフ一同心をこめてお手伝いさせていただきます。



分娩に際し、できるだけ皆様のご要望にお応えするため、パースプランの作成にご協力をお願いしております。ご自身の考え方に沿ってお選びいただき、「パースプラン1」にご記入ください。また、できれば「パースプラン2」のご記入もお願いします。

陣痛・分娩ケアの様式

1. 部屋選択

当院の標準的方法は、分娩第1期中頃（陣痛間隔が3～5分頃を目安）から陣痛室で経過観察をします。子宮口が全開したら、分娩室へ移動し、分娩および分娩後の処置を行います。処置終了後、再び陣痛室に戻り、一定時間（約2時間）、産科管理をしながら休養をとり、その後病室に戻ります。

一方、LDRシステムで分娩する方法もあります。これは入院後、陣痛から分娩、回復まで、同じ部屋で管理するものです。ご家族もご希望があれば応接コーナーで同席することができ、より家庭的な分娩方法です。

- a. 標準的方法が良い
- b. LDRシステムが良い（有料）

2. 陣痛

当院の標準的方法は、原則として自然陣痛にて分娩経過をみていきます。微弱陣痛によりお産が長引き、母体の疲労や、胎児のストレスを強める場合には、必要に応じて陣痛促進剤による分娩促進を行います。使用にあたっては医師により説明があります。その際には、胎児の状態を把握するために分娩監視装置などを適宜使用します。

- a. 標準的方法が良い
- b. 状況により医師と相談して決めたい
- c. 陣痛促進剤は使用したくない

3. 分娩室での立ち会い

当院では、陣痛室まではご主人をはじめ、ご家族も一緒にできますが、分娩室の立ち会いについては、原則ご主人のみとさせていただいております。なお、LDRシステムの場合はご本人の同意があればどなたでも同室自由です。ただし、帝王切開の場合、立ち会いは不可となります。

- a. 立ち会いを希望しない
- b. 夫の立ち会いを希望する
- c. 夫以外の立ち会いを希望する

事情により考慮しますので、ご希望のある方はお申し出ください。（例えば通訳の方など）

4. 分娩形式

当院では、原則、経膣分娩を行っております。その場合、体位は最も産道が広がる半臥蹲踞位分娩（しゃがみこんだような姿勢）になります。しかし医学的適応（児頭骨盤不均衡、骨盤位、胎児機能不全、双胎、既往帝王切開など）により帝王切開になることもあります。当院の帝王切開は、原則、腹壁横切開、麻酔は硬膜外麻酔です。また理由によっては希望による帝王切開も考慮します。

a. 原則、経膣分娩が良い

b. 希望により帝王切開をしたい

以下については、医学的に必要な場合、同意を得て施行しております。

※ 吸引・鉗子分娩

子宮口が全開大しても長時間分娩に至らない場合、母体の疲労や胎児機能不全などを引き起こすことがあります。特に胎児の生命予後の危険が予測される場合は速やかに分娩を終了させる必要があり、このような場合適応となります。

※ 会陰切開

分娩の経過、胎児の状態により、会陰部の自然裂傷を少なくする為に、会陰切開を行います。また、縫合は原則「連続埋没縫合」という縫合法を採用しておりますので、局所の痛みも軽く、抜糸の必要もありません。

切開が必要かどうかの判断は医師が行い、ご本人同意の上、施行しております。

※ 分娩監視装置

陣痛の強さと胎児の状態を調べるため、分娩監視装置を装着します。分娩の進行状況によっては長時間分娩監視装置を装着し、管理させていただくことになります。

5. 無痛分娩

ご希望のある方、または医学的適応がある方には、無痛分娩を行っています。

当院での無痛分娩の麻酔法は硬膜外麻酔です。

この方法は痛みをある程度和らげることができますが、多くの方は陣痛がくるのはわかります。分娩の際には陣痛に合わせていきんでいただきますが、麻酔の効果で十分にいきみがかからないことがあり、促進・吸引・鉗子分娩になることがあります。

また、夜間・休日には対応できない場合もあります。

無痛分娩のための計画分娩は行っておりません。

a. 無痛分娩は希望しない

b. 無痛分娩を希望する（有料）



6. アロマセラピーサービス

陣痛・分娩時、状況に応じたアロマセラピーサービスを行っております。

陣痛緩和を助けるブレンドオイルによる、アロマトリートメント・アロマライト・冷タ

オル・フットバスなどの方法で、心と体をリラックスさせ、前向きに出産に取り組めるようお手伝いします。状況によっては行えないこともあります。また、香りが苦手な方は香りのないオイルもご用意しております。

- a. 希望する
- b. 希望しない



出産後ケアの様式

7. 早期母子接触（カンガルーケア）

当院では、経膈分娩で出生し、赤ちゃんに緊急を要する異常のない場合、お母さんと赤ちゃんの肌と肌を直接合わせて抱く「カンガルーケア」を行っております。

帝王切開での出生の場合は、お母さんが手術中のため、代わりにお父さんが同様にカンガルーケアを行うことも可能です。お母さんは手術を終え、麻酔からさめた後、カンガルーケアを行うこともできます。

赤ちゃんとお母さんの肌と肌、心と心がつながったホッとするあたたかい時間です。カンガルーケアは赤ちゃんの呼吸・循環・体温を安定させ、感染から赤ちゃんを守り、子宮外での生活に慣れるのに役立ちます。また、お母さんの初乳を飲ませ、母乳育児のスタートとなります。

ただし、生まれてすぐの赤ちゃんは呼吸や循環がまだ十分に安定していないため経皮酸素モニターを付けてカンガルーケアを行います。

- a. 希望する
- b. 希望しない

帝王切開の場合（夫）

- c. 希望する
- d. 希望しない



8. 出産後のアロマトリートメントサービス（産後1回無料）

アロマセラピストのアドバイスのもと、好きな精油をお選びいただきます。出産で緊張した体をやさしくもみほぐし、心身のリラックスをはかって出産後の疲労、興奮を鎮めます。専用のアロマセラピールームでのゆったりした時間をお過ごしください。またご希望の方には、2回目から有料で受けていただけます。

- a. 希望する（体調、体質によってはトリートメントができないこともありますのでご了承ください。）
- b. 希望しない

お部屋での気分転換や心地よい眠りのためにアロマライトの貸し出しも行っております。ご希望の方はお申し出ください。

9. 新生児との過ごし方・授乳の方法

赤ちゃんとの接し方は、授乳の方法とあわせて、お選びください。産後の体調に応じて途中で変更することも可能です。

もともとお腹の中に入っていた赤ちゃんが、うまれてからもお母さんと一緒に過ごすことは自然なことです。母子同室は、お母さんが赤ちゃんのことをよく知り、育児の技術を早く覚えることができ、退院後の育児に自信を持つのに役立ちます。また赤ちゃんを感染症から守り、母乳育児がうまくいくのにも効果があることがわかっています。

a. 完全母子同室（うまれてすぐから全日母子同室）

うまれてすぐから昼夜とも母子同室です。

「赤ちゃんが欲しがるときに欲しがるだけ」飲ませるのが原則で、赤ちゃんの「欲しがるサイン」に合わせて授乳しましょう。母乳の飲ませ方や人工乳の調乳方法はスタッフがお伝えしますが、赤ちゃんと一緒にいると自然とわかってきます。

b. 出産翌日より全日母子同室（出産当日は赤ちゃんを新生児室でお預かり）

お産当日は赤ちゃんを新生児室でお預かりし、お母さんの休息をはかります。新生児室にお預かりの時は時間授乳です。お産翌日から昼夜とも母子同室です。

c. 昼は同室、夜は新生児室にてお預かり

お母さんの休息をはかるために、夜は赤ちゃんを新生児室にお預かりし、時間授乳をします。（母乳がよく出るようになれば夜も同室をおすすめします。）

d. 授乳時間以外は赤ちゃんは新生児室

お母さんがしっかり休息したい場合、または休息しなければならない場合、あるいは赤ちゃんの事情で同室できない場合です。授乳はできますが、自律授乳は困難です。病院のスケジュールに合わせて時間授乳になります。

出産当日は、赤ちゃんのことが気になってなかなか眠れないものですので、できればうまれてすぐからの全日母子同室をおすすめします。お母さんが疲れたらいつでも新生児室に預けることができますので、まずは同室してみてはいかかでしょうか。夜のお預かりを選択された方も、母乳が出てくるようになると、夜間も同室される方が多いです。赤ちゃんとの過ごし方は、お母さんの疲労の度合いや赤ちゃんの状態、おっぱいの出方によって、途中で変更できます。スタッフも臨機応変に対応しますので、ご自分の体調に合わせてご希望をお申し出ください。母乳栄養希望の方だけでなく混合栄養の方も人工栄養の方も、赤ちゃんのことをよく知るために母子同室をおすすめします。

10. 栄養の種類

赤ちゃんには母乳が一番です。特にうまれて最初に口にするのは、お母さんの母乳（初乳といって、免疫物質がたくさん含まれています）であることが望ましいのです。産後間もないときは母乳の量が少ないですが、月満ちてうまれた赤ちゃんの場合は、それで十分であることがわかっています。母乳の出方が遅れる場合や、少なめの場合は人工乳を足しますが、通常は足すのは生後48時間以降で大丈夫です。当院では小児科医が回診を行い赤ちゃんの状態を診ていますので、ご安心ください。また、上のお子さんにアレルギーがあるなどで、赤ちゃんのアレルギーを心配される場合は、母乳だけを飲ませる（人工乳を使用しない）ことをおすすめします。必要な場合は、アレルギー用の人工乳を使いましょう。

- a. できれば母乳のみ。足りなければ人工乳も併用
- b. 母乳のみ
- c. 混合栄養
- d. 人工栄養

母乳のみ希望の方へ…

ビタミンKシロップ内服の際や、搾乳や人工乳を足さなくてはいけなくなった場合、哺乳瓶（乳首）の使用（可・不可）をバースプラン1の特記事項にチェックしてください。

※ 乳房のケアと授乳練習

うまれてすぐから、赤ちゃんの欲しがるサインに合わせて飲ませていけば、産後3日目くらいから母乳がよく出るようになる方が多いです。そのためには、産後すぐから何度も授乳をすることが大切です。赤ちゃんが小さめの場合や、母乳の出が遅めや少なめの時に、途中から人工乳を足すこともあります。母乳の出が増えてくれば母乳だけで足りようになります。また、母乳を出すホルモンは夜間によく出るので、夜の授乳は大切です。夜の授乳は、乳房の張りすぎを予防するのにも役立ちます。

乳房が張ってつらい時には、スタッフにご相談ください。

一人一人のお母さんと赤ちゃんの状況に合わせて、スタッフが授乳の援助をします。

入院中にしっかり練習してご自分でできるようになって帰りましょう。

※ 各種教室への参加

母親教室・プレママおっぱい教室への参加の有無を、バースプラン1の特記事項にチェックしてください。



11. アフターマタニティ歯科

産褥期では60%のお母さんが口腔内にトラブルを自覚しているといえます。

産後は出産直後から体力が低下し歯茎の炎症を起こしやすく、また授乳などの育児の忙しさから歯磨きなど口腔内ホームケアがおろそかになり、虫歯をつくりやすい時期です。

またお母さんの虫歯は、お子様にもうつる感染症でもあります。

お母さんと赤ちゃんがお口の健康を保てるように産後入院中に一度、口腔の健診とケアを受けておくことをおすすめします。

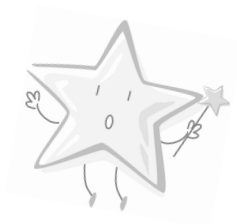
a. 希望する（有料）

b. 希望しない

12. 出生後の先天性代謝異常症・聴覚障害のスクリーニング検査について

早期発見・早期治療のために重要な検査で基本的に全員の赤ちゃんに受けていただきます。

どうしても受けたくない方や結果を母子手帳に記載して欲しくない方は、病棟スタッフにお伝えください。



産科・婦人科・小児科・内科・心療内科
再生医療科(歯科口腔外科・形成外科)

医療法人 東 恵 会

 **星ヶ丘マタニティ病院**

〒464-0026 名古屋市千種区井上町27番地

TEL (052) 782-6211 FAX (052) 782-2678

<http://www.toukeikai.com>

<http://www.toukeikai.com/saisei/index.html>